

「あたたかい場所」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 入学式の日思ったこと

鍛錬主義については伝えたかったのです。4月8日、81回生の入学式。だから私は式辞の真ん中にそのメッセージを織り込むことにしました。

ここ神戸高校での3年間で、皆さんはおそらく多くの綺麗な花を見つけるでしょう。それは先輩かもしれませんし、同級生かもしれません。ただ、その人はおそらく自分の成長のために一心に咲いています。その姿に学びながら、どうか皆さんも綺麗な花を咲かせてください。

そのためには自らを鍛えるという視点は欠かせません。幸い、本校には先輩から受け継いだ「鍛錬主義」という文化が息づいています。やがて咲き誇る日のために、「しっかりと自らを鍛える」そんな三年間を過ごしてもらえたら、そう願っています。

実にいい式典でした。特に81回生の担任団紹介のあと、ひとり壇上に残った澤田学年主任のスピーチはその眼差しから思いの丈が伝わるものでした。「挨拶を大切にしよう」と呼びかけたあと、先生はこう続けます。

「私からはふたつ。ひとつは『人は1日に35000回の選択や判断をする』と言います。何が正しいのか、何がよいのか、解らない世の中です。どうか物事の本質をしっかりと捉えて決断をしましょう。もうひとつ、どうか自然体を大切に。柔道における自然体は攻撃にも防御にも優れた姿勢です。物事には自然体で向き合っていきましょう。逃げたいこと、避けたいことの中にも新しい発見はあります。どうか志高き高校生活を」

そう言えば昨年度の入学式。80回生の保護者の方々への榎本学年主任のスピーチも心に響くものでした。そのお蔭もあるのでしょう。あの日、神戸高校に入学を許可した80回生は誰一人欠けることなく、2年生としてこの春を迎えることとなりました。もちろん勉学で躓いたこともあるでしょう。人間関係に悩んだこともあるでしょう。それでも皆がこの場所でひとつ上の学年となったこと、とても嬉しく思います。保護者の方々、学年団、そして何より1年間支え合ってくれた生徒諸君に感謝です。ちょうど1年前に書いた通信の一部を今回は添えておきます。読んでいただくと幸いです。



さて、今年度の入学式も、新入生の校歌斉唱は来賓の方々を驚かせる見事なものでした。私は1人、81回生が入学する前のことを思い出していました。登校日を利用しての校歌練習でのことです。ステージ上には能島先生がおられました。3月31日付けで退職が決まっているのに、能島先生はそんな素振りは見せることなく、発声練習から歌唱指導まで段階を追って81回生の良さを引き出していきました。さすがのステージマスターぶりでした。

能島先生にとって最後になるかもしれない母校でのステージ上からの指導。私はひたすら能島先生の姿を目で追っていました。ふと振り向くと新入生が学校生活にソフトランディングできるよう、様々な場面で学校生活を支えている世話係の生徒たちが単に歌うだけでなく、能島先生にあわせて発声のための身体ほぐしなどもともにしていました。さらに、4月1日からは違う学校での勤務が決まっている片山先生までも、世話係の後ろで動きをあわせておられました。

胸が熱くなりましたね。能島先生、そして片山先生、これまでも本校生のために、さらにあの日は本校81回生のために本当にありがとうございました。お蔭さまで入学式当日、新入生は講堂に響き渡り、心にも深く響く歌声を聴かせてくれました。この場を借りて、感謝申し上げるとともに、おふたりの今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。



さて81回生の皆さん、神戸高校へようこそ。皆さんが選んでくれたのは、こんなふうにあたたかい場所です。

「きみ歌えよ」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 始業式を前に

名指揮者でもある能島先生に誘っていただいたのです。神戸高校合唱部のホームコンサート。今年はずでに香川県で開催される全国総合文化祭への出演を要請されている兵庫県を代表する合唱部のひとつです。これまでの仕事柄、そのステージは何度も見せてもらっていましたが、本校講堂を利用して、先輩たちと繰り広げるプログラムは当然ながら見たことがありません。私は興味津々でした。



果たして当日は無伴奏混声合唱あり、ミュージカルあり、大久先生が歌うシーンありと、バイタリティを見せつけてくれました。念願の関西大会突破に向けて、よいスタートですね。

○ 式で生徒に伝えたこと

桜の季節なので、まずは桜の話から入ります。

桜は満開となったあと、華々しく散ります。そのあと、夏には花の芽を作ります。その花の芽ですが、ある程度まで成長すると、冬の初めにはいったん眠りに入るそうです。成長も止まります。そうして、しばらく休んだあと真冬の寒さによって眠りから、ふっと目を覚まします。これが「休眠打破」です。

目覚めた花の芽はその後、春の暖かさとともに再び成長を始め、やがて開花します。桜はどこか私たち人間と同じなのかもしれませんね。花を開くために、まずは夏の暑い日に自らを鍛えるのです。勉強でも部活動でもそうですよね。しんどい思いをしないで成長することなど不可能です。でも、ある程度まで成長したら、そこで休眠する、つまり休むことも必要なのです。そのうえで、しっかりと厳しい冬の寒さ、つまり思い通りにいかないことを経験して目が覚め、そこで一気に花を咲かせることができるそうです。

鍛えないと人は強くなれません。でも、たまに休まないと心が折れてしまいます。「自分は弱いな」「あいつには適わないな」そう思うことは大切です。でも、それで落ち込む必要はありません。最終目標は自分らしい花、自分にしか見せられない花を咲かせることなんです。長い目で見て、それぞれがいつか花を咲かせられるように。



入学式後には学年主任の榎本先生から保護者の方に「比べないであげてください」というお話がありました。友人や兄姉、くわえて過去の本人と。多くの1年生がこれまでエース級の活躍を見せていたことでしょう。それでもエース級ばかりが集まると、その中で1番もあれば300番もあります。平均点を下回るテストに落ち込むこともあるでしょう。そんなとき、支えてくれるのは先ずもって、ご家族のご理解ですものね。

保護者の方も聞き入っておられました。さらに榎本先生からは、「私が信頼できる仲間が集まっている学年団です。どうか信頼してください」という話もありました。その思いも届いたことと思います。

○ 『きみ歌えよ』

すべてが終わった後、私の脳裏に浮かんだのは、冒頭に書いたホームコンサートの日のことです。あの日、演目が終わって講堂を出ると、背後から歌声が聴こえました。合唱部の生徒がバルコニーから歌声で見送ってくれていたのです。曲は谷川俊太郎の詩にメロディをつけた『きみ歌えよ』。

哀しいことやつらいこともあれば、うれしいことも好きなこともあります。その折々の思いを洗いざらい歌えば、誰かと思いを分かち合える、という詩です。『そんな高校生活が待っていますように』、1人そう祈った私です。

